

第1回 蒲郡市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

開催日時	令和3年12月16日(木) 午前10時から午前11時30分まで																																		
開催場所	蒲郡市役所 304会議室																																		
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>豊橋技術科学大学 教授</td> <td>浅野 純一郎</td> </tr> <tr> <td>豊田工業高等専門学校 准教授</td> <td>佐藤 雄哉</td> </tr> <tr> <td>蒲郡商工会議所</td> <td>鈴木 俊介</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市農業委員会</td> <td>牧原 佐知子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡商店街振興組合</td> <td>稲葉 謙</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市青年会議所</td> <td>小池 健太郎</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市総代連合会</td> <td>山口 修</td> </tr> <tr> <td>社会教育委員</td> <td>鈴木 庸子</td> </tr> <tr> <td>蒲郡国際交流協会</td> <td>水野 順也</td> </tr> <tr> <td>農村生活アドバイザー</td> <td>小嶋 智明</td> </tr> <tr> <td>蒲郡市都市開発部 部長</td> <td>宮瀬 光博</td> </tr> </table> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>愛知県都市・交通局都市基盤部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都市計画課 課長補佐</td> <td>菅沼 克文(代理出席)</td> </tr> <tr> <td>愛知県東三河建設事務所 企画調整監</td> <td>渡會 竜二</td> </tr> </table> <p><b>【事務局】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>都市開発部都市計画課 課長</td> <td>鷹巣 央佳</td> </tr> <tr> <td>係長</td> <td>足立 皓介</td> </tr> <tr> <td>技師</td> <td>大塩 正裕</td> </tr> </table> <p><b>【委託業者】</b></p> <p>中央コンサルタンツ株式会社 2名</p>	豊橋技術科学大学 教授	浅野 純一郎	豊田工業高等専門学校 准教授	佐藤 雄哉	蒲郡商工会議所	鈴木 俊介	蒲郡市農業委員会	牧原 佐知子	蒲郡商店街振興組合	稲葉 謙	蒲郡市青年会議所	小池 健太郎	蒲郡市総代連合会	山口 修	社会教育委員	鈴木 庸子	蒲郡国際交流協会	水野 順也	農村生活アドバイザー	小嶋 智明	蒲郡市都市開発部 部長	宮瀬 光博	愛知県都市・交通局都市基盤部		都市計画課 課長補佐	菅沼 克文(代理出席)	愛知県東三河建設事務所 企画調整監	渡會 竜二	都市開発部都市計画課 課長	鷹巣 央佳	係長	足立 皓介	技師	大塩 正裕
豊橋技術科学大学 教授	浅野 純一郎																																		
豊田工業高等専門学校 准教授	佐藤 雄哉																																		
蒲郡商工会議所	鈴木 俊介																																		
蒲郡市農業委員会	牧原 佐知子																																		
蒲郡商店街振興組合	稲葉 謙																																		
蒲郡市青年会議所	小池 健太郎																																		
蒲郡市総代連合会	山口 修																																		
社会教育委員	鈴木 庸子																																		
蒲郡国際交流協会	水野 順也																																		
農村生活アドバイザー	小嶋 智明																																		
蒲郡市都市開発部 部長	宮瀬 光博																																		
愛知県都市・交通局都市基盤部																																			
都市計画課 課長補佐	菅沼 克文(代理出席)																																		
愛知県東三河建設事務所 企画調整監	渡會 竜二																																		
都市開発部都市計画課 課長	鷹巣 央佳																																		
係長	足立 皓介																																		
技師	大塩 正裕																																		
議題	<p>(1) 都市計画マスタープランの概要</p> <p>(2) 都市計画マスタープランの改訂の概要</p> <p>(3) 現行計画の実施状況について</p> <p>(4) 蒲郡市の現況とまちづくりの課題</p>																																		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・蒲郡市都市計画マスタープランの概要 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></li> <li>・現行計画の実施状況について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></li> <li>・都市づくりの現況と基本的な課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3-1</span></li> <li>・蒲郡市都市計画マスタープラン策定委員会資料集 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3-2</span></li> <li>・まちづくりに関するアンケート調査の概要 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span></li> </ul>																																		
会議内容	<p><b>1 市長挨拶</b></p> <p>令和元年11月に市長へ就任してから、早くも2年が経過した。これまでの2年間は、新型コロナウイルス感染症対応に追われた日々であったが、今後は練り上げた計画に沿って、まちづくりを一步一步着実に進めていきたいと考えている。</p>																																		

本市の代表的な計画が、令和3年6月に策定した第5次総合計画で、10年後の将来都市像を「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」と掲げている。

この将来都市像を実現するためには、各分野において具体化する計画を立てる必要があり、長期的展望のもと進めていく都市計画分野は重要な役割を担っていると考えている。

委員の皆様方の貴重なご意見をいただき、対話と会話を充実させながら、本市の都市計画マスタープラン策定を進めたいので、ご協力を願いたい。

## 2 事務局説明

(1) 各委員の紹介

(2) 会議の公開方法について、会議の要点記録をホームページで公開し、委員会運営の透明性・公平性を図っていくこととする。(委員からの異議なし)

## 3 蒲郡市都市計画マスタープラン策定委員会会長の選出について

委員からの提案により事務局案として提示した浅野純一郎委員が互選により選出された。

## 4 会長挨拶

本委員会は、今年度から来年度にわたって開催される予定。私が蒲郡市に関わるようになったのは14年前からで、豊橋に来た時からになる。県内では観光条件や景観に恵まれており、特徴的なまちだと思っている。人口減少が進んでおり、成熟していくというところでは良いことではあるが、明確な未来が描きづらい時代になってきているように感じている。持続可能性ということも言われていることから、なるべく希望があるようなマスタープランにしていけたらと思っている。よろしくお願ひしたい。

## 5 議題

(1) 都市計画マスタープランの概要

(2) 都市計画マスタープランの改訂の概要

配布資料 (資料1) に基づき事務局が説明

質疑応答 (発言順)

なし

(3) 現行計画の実施状況について

(4) 蒲郡市の現況とまちづくりの課題

配布資料 (資料2、資料3-1、資料3-2) に基づき事務局が説明

質疑応答 (発言順)

A委員：

資料3-2の5頁に総合計画の目標人口が示されており、20

30年(令和12年)で77,000人となっている。平成28年3月に策定された蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンでの目標値との兼ね合い等も含めて、総合計画での目標人口の設定の考え方が分かれば教えていただきたい。

事務局：

人口ビジョンでは、2030年(令和12年)時点での市独自の推計値として人口74,635人を想定・目標にしている。現在時点での実際の人口が人口ビジョンで想定した値を上回っているため、総合計画では人口ビジョンより上向きの目標値を設定していると思われる。

会長：

人口ビジョン策定時点で予想した人口よりも実際の人口のほうが上振れしているということか。

事務局：

ご意見のとおり。

会長：

資料3-2の5頁に記載している令和2年の人口は、国勢調査の実数ということでよいか。

事務局：

ご意見の数値は、住民基本台帳の数値である。総合計画の策定時は、令和2年の国勢調査結果が公表されていないことから、住民基本台帳の数値を掲載したと思われる。

会長：

資料3-2の11頁に記載している令和2年の人口は、国勢調査の値なのか。

事務局：

令和2年国勢調査の速報値を記載している。

会長：

そうすると、国勢調査をベースにした人口ビジョンの数値に対して住民基本台帳人口が上振れしているという解釈か。

いずれにしても、世帯数は増加しているため、人口は減少傾向だがそれなりの宅地の需要はあるということになる。

B委員：

資料3-2の1頁に上位計画として東三河都市計画区域マスタープランが記載されているが、改訂年月は平成31年3月のため修正が必要。掲載順について、市の最上位計画である総合計画を先に記載し、その次に都市計画の上位計画である都市計画区域マスタープランを記載されてはどうか。

資料3-2の70頁の意向調査について、「駅前などの市街地の整備」に対する市民満足度のマイナスが突出して大きい結果となっている。蒲郡市の場合、利用者が一番多い蒲郡駅や、観光地に近い三河三谷駅、ラグーナ地区に近い三河大塚駅、競艇場に近い三河塩津駅など様々な駅があるが、それぞれの駅で傾向を分析することが必要ではないか。

事務局：

上位関連計画に対するご指摘は対応する。

各鉄道駅での傾向分析については、全体構想では全駅に共通する方向性を記載し、地域別構想を検討する際にそれぞれの鉄道駅について記載することを考えている。

B委員：

各駅に対してどういうニーズがあるかこれから確認するということか。

事務局：

市民意識調査の中で、どの駅を利用しているか確認しており、駅ごとの市民ニーズは調査結果により分析できると考えている。

会長：

資料1の関連する主な計画に、中心市街地活性化基本計画がないが、認定計画はあるのか。

事務局：

認定計画はない。

会長：

以前は策定されていたのか。

事務局：

平成初期に策定した法定計画ではない計画はある。

会長：

その計画の期間が切れているのか。

事務局：

確認する。

委員会後に事務局で確認した事項

- ・策定：平成13年
- ・計画期間の定め：無し(計画期間は切れていない)

A委員：

資料3-2の34頁、35頁にある、都市機能施設の分布について、令和元年に立地適正化計画を策定しているということだが、それ以降に、都市機能誘導区域外に転出する届出を行った誘導施設を整理すると、施設の立地動向が分かるのではないか。数は多くないかもしれないが、今後の方針を検討する上では、整理しておいたほうがよい。

会長：

立地適正化計画の中で整理するのか、都市計画マスタープランの中で整理するのかということだと思うが、データとしては整理しておいて、掲載の方法を含めて議論するのがよいと思う。誘導施設だけでなく、居住誘導区域外への住宅立地も含めて整理するとよい。

会長：

空き家対策も実施されていると思うが、どのような状況かがわかるとよい。例えば、空き家バンクの利用実績や管理不全空き家への対策などを整理するとよい。

A委員：

資料3-1の対応・配慮事項にあるSDGsへの対応、コンパクトシティはどの自治体でも記載があるが、これらに加え蒲郡市の場合は、サーキュラーシティやゼロカーボンシティの宣言をされており、これらの取組みを都市計画の方針としてどう取り込んでいくか検討することが、非常に大切なことだと思う。

都市づくりの基本的な課題に具体的に結び付けるというよりは、まちづくりの方針に入れ込んでいくことが重要だと思うが、市としてはどのように考えているか。

事務局：

サーキュラーシティはこれまでになかった言葉である。似た言葉で循環型社会がこれまでにあったが、都市計画の方針に具体的に記載できていなかった。都市計画の方針としてどこまで具体的に書けるか、現状では未知数であるため、委員会等でのご意見を反映させながらまとめていきたいと考えている。

A委員：

SDGsなど都市計画に反映させていく必要がある視点や、蒲郡市だけでなく愛知県全体の方針など、政策間の横のつながりが次の委員会では見えてくるとよい。

C委員：

蒲郡市は東三河の一部ではあるが西三河にも接している。蒲郡市の分析はよくできていると思うが、人口の流入などについて検討する際に周辺の都市と比べて何が魅力で、勝っていて、何が弱いのか把握して、良いところは伸ばして弱いところは改善することが重要である。また、何が遅れていて、重点的に対応しないといけないのか、最終的に人口の流入や定着につなげていくために、他の都市との比較分析があると分かりやすくなると思う。

会長：

SWOT分析のような形でまとめると、もう少し分かりやすくなると思う。外側からの要因と内側からの要因と分けた上で、強みと弱みを自己分析し、これを踏まえて課題を取り出すようにすると分かりやすいと思う。

今回の内容を全て埋め込もうとすると、複雑になるかもしれないが、そういう取りまとめ方をすると委員の意見への回答となると思う。

D委員：

西浦や形原の特に若い方は、幸田町や岡崎市に転出してしまう。職場や配偶者などの要因はあると思うが、蒲郡市ではだめなのかということを感じる。蒲郡市は土地が高い・不便だと聞いたりするが、転出する理由や蒲郡市を選んで居住する理由を確認すると、強みや弱みがわかるのではないか。そういったことがアンケートなどで確認できるとよい。

会長：

まち・ひと・しごと総合戦略などで、そういった調査は実施していないのか。人口増加に関する政策の中心部署で調査をされているのであれば、それを活用するとよい。

東三河総局で実施している、東三河人口問題連絡会議に出席しているが、そこでは、東三河の各市町村が転出入の届出者にアン

ケートをとっているようである。蒲郡市でも実施していると思うので、確認してほしい。

会長：

本市を取り巻く社会環境の変化の部分にすでに書いてあるものもあるが、現在よく使用される社会的なキーワードは入れておきたい。例えば、デジタルトランスフォーメーションやカーボンニュートラルなどがある。

なお、資料3-1の対応・配慮事項で、本市を取り巻く社会環境の変化に記載してある、グリーン社会とはどういったことか。

事務局：

資料3-2の79頁に記載があるが、国土交通省で取りまとめられたプロジェクトであり、カーボンニュートラルなど網羅的に含めた取り組みが示されている。

会長：

議題の3については、以上とする。

今回は、本日の意見を踏まえて、現状分析と課題を修正したものと全体構想の骨子を、通しで確認する。

## 6 事務局からの連絡

会議傍聴意識調査について。本日の資料としてお渡しした用紙にご記入いただきご提出いただきたい。いただいたご意見に、傍聴者がいることで会議運営に支障が生じると思う、というご意見が含まれる場合には、傍聴者なしでの委員会開催を進めたいと考えている。

今回の会議は、令和4年3月に予定している。日時は改めて連絡させていただく。

都市計画というあまりなじみのない分野についての会議のため、会議以外でも気軽にご質問いただければと考えている。今後ともよろしくお願ひしたい。

(会議終了)